

## 宇治武田病院

### 病棟、外来、地域へと繋げ!! 認知症ケア

厚生労働省は2025年に認知症の人が約700万人に達すると新たな推計を明らかにしました。これは65歳以上高齢者の5人に1人に当たります。

宇治武田病院では2025年問題を見据え、5年前より認知症ケアへの取り組みを行っています。今後、高齢者が増加し病院では患者さんの多くが認知症を抱えていると考えられます。そこで認知症を全職員が理解できるように研修を行ってきました。アルツハイマー型、レビー小体、血管性、前頭側頭型認知症の4疾患の病状、治療、看護への看護基準を作成し、現在では日々の看護ケアに活かしています。5年を経て、認知症患者さんへの対応は変化しています。患者さん一人ひとりを人としてその人らしさを大切に日々患者さんと向き合っています。



私が所属する5階病棟は内科病棟です。院内でも平均年齢が高く、認知症患者さんが多い病棟です。今年度は小グループ活動の中に認知症チームを設けました。

認知症グループメンバーとともに認知症ケアについての目標を立て、認知症カンファレンスを月2回開催しています。認知症カンファレンスでは現在の症状や対応、看護の問題点を話し合います。またその人が生きてきた人生の中での楽しみや役割、こだわりなどを記載できる患者情報シートを活用し得た情報を看護計画に取り入れています。認知症シートから得られる情報は、私たち看護師が知らない患者さんのことを多く知る機会となり、知ることが楽しみのひとつになっています。

今後もその人が生きてきた人生と人生観を大切に、まずは患者さんを「知る」ことから始め認知症患者さん、ご家族が心地よいと感じられるベッド環境、病棟、病院作りをしていきたいと考えます。認知症ケアは「地域」で支えなければなりません。今後は患者情報シートの活用の拡大、認知症チェックリストを外来、病棟で活用し、適切な看護の提供と

今年度は認知症ケアだけでなく老年看護や介護保険の研修を開催、排泄ケアへの取り組みも体験、実践できるように企画しました。外部講師を招き、適切なオムツサイズ、オムツの特性や装着手順など、看護師だけでなく看護補助者も参加できるようにしました。日頃何気なく実施しているオムツ交換も根拠や手順をしっかりと守ることで、快適なケアに繋がると改めて実感する機会となりました。不適切なオムツ交換は、ADLの妨げや、尿や排便の漏れ、患者さんの不快感、認知症患者さんへのBPSDの出現に繋がると実際にオムツを装着し体験することでより理解ができたと思います。3年前より年3回の事例検討会を開催し、其々の部署が事例を持ち寄り、グループディスカッションを行っています。事例検討会は、看護の振り返りや次の看護に生かす学びの共有の場となっています。



事例検討会で使用したマインドマップ

性格	家庭・家族の中の役割	毎日の日課、日中の過ごし方
温厚	夫 父親、おじいちゃん	TV 大姉さま 歌をまわす、絵をみる
職業歴	趣味・特技	愛用品、こだわり
会社員	つり(石焼つり) 黒いをつるぞうです	つり竿 つりの本
苦手なこと	対応への要望、注意してほしいこと	気になること
字が読めず	元々ゆっくり話します。病気をあり よりゆっくりなので伝えてあげてください。	

奥さんとして仲良くして  
入院前はベッド向かい合わせで  
すごされていたそうです

認知症チーム H27年9月1日作成

ともに、病棟、外来、地域へと繋がる認知症ケアの提供を行い、患者さん・ご家族が望む場所へ早期に戻れるように他職種と協働し地域とともに歩んでいく病院作りに今後も皆で取り組んでいきます。

宇治武田病院 看護部  
副部長・主任会 5階病棟  
椿森 小夜子

## 医療法人 財団 康生会 武田病院

### この平成28年1月より 康生会武田病院に復帰いたしました

質と結果にこだわった手術をさせていただき、患者さんの「健康寿命」の延長に少しでも貢献したいと考えておりますので、前回在任中同様、これからもよろしくお願いいたします。



朴 昌禧(ハク マサキ)  
心臓血管外科 部長  
・卒大/卒年 山口大学/昭和59年  
・心臓血管外科・日本胸外科学会指導医  
・心臓血管外科専門医  
・日本外科学会専門医  
・心臓血管外科修練指導医

### 腹部大動脈瘤のステント治療を開始しました

胸部大動脈瘤の場合、当院では半分以上が急性大動脈解離の症例です。通常急性大動脈解離の手術での死亡率は10-20%前後と高率ですが、この5年間は私が手術させていただいた患者さんに手術の死亡は認めていません。特に急性大動脈解離の場合は緊急手術を要する場合がほとんどですが、当院では、心臓血管外科および臨床工学技士が毎日当直しており、24時間手術ができる体制を整えています。

腹部大動脈瘤につきましては、当院でもステント治療が可能となりました。もちろん開腹手術は術後長期の成績も安定しており、開腹での手術を当科の基本方針としており



ますが、全身状態が不安定な患者さんにはステント治療が非常に有効な手段と考えています。

## 指定管理者 医療法人 医仁会 精華町国民健康保険病院

### CT撮影装置を更新いたしました

1月18日より新しいCT撮影装置が稼動いたしました。

これまでの2列撮影から16列撮影へと、短時間で広範囲を一度に撮影ができるようになりました。

今まで以上に精密な画像の撮影ができ、さらに立体画像化によって平面画像では見つけにくかった患部の発見もできるようになります。

このCT装置導入によりさらなる医療の質の向上と地域医療の発展に貢献できるものと確信しています。



## 医療法人 医仁会武田総合病院

### 災害訓練を実施しました

1月24日に醍醐消防分署立会いの下、医仁会武田総合病院にて災害訓練を実施しました。当日は約70名の職員が参加し、被害状況を想定した災害訓練がいかに大切かを話し合い、集中して訓練に取り組みました。

今後も、緊急時対応力の向上や消防との連携強化など、さらなる救急体制の充実に努めてまいります。

武田病院グループは、地域の安心ある暮らしへの貢献をめざし、医療の質とサービスの向上、災害時の対策・訓練など、総合的な取り組みに力を注いでいます。

